

V 地域交流(平成26年度後期・27年度前期)
(年次報告(平成26年度後期・27年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 案野, 香子, 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009662

V 地域交流（平成26年後期・27年前期）

案野 香子／袴田 麻里

平成26年10月15日(水)、静岡県立浜松北高校国際科の生徒40名が授業の一環として来校し、留学生と英語で交流した。

10月18日(土)、静岡市青少年国際親善交流事業の活動の「昔の遊びにチャレンジ」に留学生24名が参加し、地域の小学生たちと交流したり、一緒に日本のけん玉や独楽などで遊び、楽しいひと時を過ごした。

同じく10月19日(日)に、静岡県留学生支援ネットワークが富士山バスツアーを実施し、静岡大学からは留学生、日本人学生合わせて50名ほどが参加した。

11月15日(土)は、同じく静岡市青少年国際親善交流事業の活動である「座禅にチャレンジ」に24名の留学生が参加し、小学生たちと交流したり、臨済寺で座禅を組んだり、境内を見学したりした。

11月21日(金)から23日(日)まで、浜松キャンパスの留学生7名（ベトナム2、インド2、マレーシア2、韓国1）が、浜松市内の家庭でホームステイし、日本の生活様式や習慣、文化を体験した。

11月22日(土)には4名のアジア出身の留学生が静岡ユネスコ協会主催の「アジアの国からの留学生と作ろう・語ろう・遊ぼう」というイベントに参加し、小学4年生から中学3年生までの子供たちと交流を行った。

12月11日(木)、1月22日(木)に、静岡大学附属浜松中学校3年生の英語授業をウクライナ、バングラデシュ、ハンガリー、インド、スリランカの留学生・外国人研究者が訪問し、中学生と日本や母国について英語で話し合った。

2月1日(日)に、NPO法人浜松日中文化交流会主催の春節パーティーが開催され、浜松キャンパスの中国人留学生や研究者、およびその家族約40名が招待され、ゲームや歌、楽器演奏などを通して、お互いの交流を深めた。

同じく2月1日(日)には、静岡市登呂公園にて、静岡市青少年育成課親善交流事業の活動である「餅つき」が行われ、22名の留学生が参加し、小学生と交流したり、餅つきを体験したり、できたての餅に舌鼓をうった。

2月11日（水・祝）に、留学生科目日本語Ⅳの受講生が、県内企業との交流会を企画した。受講生が直接企業に連絡を取った結果、4社の参加を得て、日本企業について、留学生の雇用について高柳記念館で話し合った。

6月27日(土)、7月4日(土)に、イギリス人のボーイスカウトを受け入れる家庭向けの英会話講座の講師を10名の留学生が担当し、英会話の指導を行った。

8月1日(土)に、NPO法人浜松日中文化交流会の「日中文化の集い」に浜松キャンパスの中国人留学生や研究者、およびその家族約30名が招待され、中国舞踊を披露するなど文化交流を楽しんだ。

8月30日(日)に袋井市メロープラザで行われた「ベトナムデー」in 袋井でベトナム人留学生がフォーを調理しふるまった。また、グローバル企画推進室がブース参加し、アジアブ

リッジプログラムの広報を行った。

9月12日(土)から14日(月)まで、ベトナム人留学生2名が浅羽ベトナム会会員の家庭にホームステイし、日本の家庭生活を体験した。

全員参加型討論会「静岡県の特徴って、なーんだ!?(話っ、輪っ、和っ! 2014)」

袴田 麻里

事業の主な成果は、大学生が実行委員として大学生のための企画を考え運営したことにより、大学生の視点から国際交流、地域交流を企画できた点である。与えられた機会ではなく、大学生自らが交流の機会を作る過程は、実行委員の大学生にとって困難な面もあったが、大学、国籍の枠を越えて深く接するきっかけともなった。そのおかげで、国際交流事業として実施したが、参加した学生同士が「国が違うから」交流するだけではなく、「同じ静岡県で学ぶ大学生」として交流する機会ともすることができた。静岡県が観光資源に恵まれていることや交通が便利なこと、その一方で自分たちが有名なお茶や観光地であってもよく知らないことに気づく機会となった。また、留学生の母国の交通事情や就職事情、エネルギー開発など、比較することで、静岡県や日本の特徴と課題が明らかになった。

参加学生には、静岡県の文化や史跡に対して高い関心を持つ大学生が多かった。これは、富士山が世界遺産登録されたこと、実行委員会が静岡県国際交流協会の企画（富士山・浅間大社へのバスツアー）に協力し、口コミで参加者を募ったことによる効果である。留学生、日本人学生が静岡県の魅力を知ることは、現在自分が静岡県で学んでいる意味を確認する意味を持つだけでなく、彼ら自身が国内外へ向けての魅力あふれる「静岡」の情報発信源となることも期待できる。また、このツアーに参加した学生が12月の話っ、輪っ、和っ! 2014「静岡県の特徴って、なーんだ!?(話っ、輪っ、和っ! 2014)」にも参加し、継続した交流を実現することができた。

このように、留学生と日本人学生は同世代の者として、大学生にふさわしいレベルで身近な話題から国家間の問題まで様々な事柄について意見を交わし、新しく人脈を広げることができた。大学生が大学生に対してこのような交流機会を恒常的に提供することは、魅力的な静岡県作りに貢献できる人材、また多文化共生社会実現に向けての人材育成につながる。

今年度は、社会人アドバイザーとして、話っ、輪っ、和っ! 実行委員OB・OGが5名参加した。これまで実行委員の学生、参加者の学生が大学を卒業すると大学とのつながりが希薄になり、後輩の大学生たちに彼らの経験や実践を還元できないことが課題であったが、今年はずでに社会人として活躍しているOB・OGが学生時代とは異なる立場で関わったおかげで、話っ、輪っ、和っ! で築いたネットワークを維持し拡大することができたと思われる。今後も様々な機会を利用して、OB・OGのネットワークを活用したいと考えている。